令和５年度　第３６回愛知県高等学校体育連盟研究大会
開　催　要　項

１　趣　旨

愛知県高等学校体育連盟に加盟する体育・スポーツ指導者の資質向上を図るため、日頃の研究成果を発表する機会を設け、高等学校体育・スポーツの発展に寄与する。

２　主　催

愛知県高等学校体育連盟

３　主　管

愛知県高等学校体育連盟研究部

４　後　援

愛知県教育委員会　名古屋市教育委員会

５　期　日

令和５年１１月８日（水）

６　日　程

受付	１２：３０～１３：００
開会式	１３：００～１３：２０
分科会	１３：３０～１４：５０
講演	１５：００～１６：３０
閉会	１６：３０～１６：３５

７　会　場

「 ホテル　ルブラ王山 」

名古屋市千種区覚王山通り８－１８

ＴＥＬ　０５２－７６２－３１５１

地下鉄東山線「 池下駅 」下車徒歩５分

８　分科会

第１分科会	発表者	森山　怜子	（愛知県立刈谷高等学校、硬式野球）
		小林　祐介	（中部大学第一高等学校、サッカー）
	助言者	磯村　幸彦	（愛知県立大府東高等学校長）
第２分科会	発表者	市川　大訓	（名古屋大谷高等学校、柔道）
		成田　敦彦	（愛知県立西春高等学校、弓道）
	助言者	久保田　竜弥	（愛知県立一宮北高等学校長）
第３分科会	発表者	若子　雄大	（愛知県立阿久比高等学校、体操）
		氏家　幸一	（愛知県立小牧工科高等学校、登山）
	助言者	川合　良司	（愛知県立佐屋高等学校長）

9　講　演

演　題　「　若者よ“欲”に忠実に野心を持て!!　」

講　師　　山﨑　武司　氏

（元プロ野球選手／中日ドラゴンズオフィシャルサポーター）

10　参加申込

(1) 申込方法及び申込先

別紙参加申込書に必要事項を記入の上、FAX で申込みをしてください。

愛知県高等学校体育連盟　研究部宛

ＦＡＸ　０５２－２５１－８１６９

(2) **申込期限　令和５年１０月６日（金）**

(3) 各校１名以上の参加をお願いいたします（全・定は各１名）。

11　分科会主旨

第１分科会	「硬式野球」　愛知県立刈谷高等学校　森山　怜子 『　野球人口を増やすための効果的な普及活動　』 近年、少年野球をはじめ、野球人口が減少傾向にあるといわれており、野球王国といわれる愛知県の高校野球も、やむを得ず連合チームで大会に出場する学校が増えている。そこで普及活動は急務であり、高校野球を持続させ、魅力あるものにするためにも、様々なアプローチを試みている。 現在行っている普及活動は、夏の愛知県大会での小学生による始球式、中学生を対象とした野球教室やドリームシート、昨年度から始めた「きっずボールパーク」などである。また、今春、高校球児にアンケート調査をした結果を基に、より効果的な普及活動はどのようなものかを研究した。 他競技に流れている子どもを野球にではなく、インターネット上での活動ばかりをしている子どもたちに、疑似体験ではなく実体験することの大切さを伝える活動を紹介する。
	「サッカー」　中部大学第一高等学校　小林　祐介 『　当たり前は当たり前ではない。常識にとらわれない挑戦。　』 本校サッカー部は、2014 年に名古屋グランパスなどで GK として活躍した伊藤裕二氏を監督に迎え、強化が始まった。それまでは部員数も少なく、県大会に出場することが目標のチームであったため、練習環境はもちろんのこと、サッカーボールやビブスなどの備品もままならない状態であった。このような困難な状況の中、伊藤裕二氏が監督に就任することにより、一昨年度の第 100 回全国高校サッカー選手権大会・愛知県大会で優勝を果たし、全国大会に出場することができた。 本研究では、県大会に出場することができなかった高校を、8 年間で全国大会に導いた本校サッカー部の取組を紹介する。

第２分科会	「柔道」　名古屋大谷高等学校　市川　大訓 『　指導者の理念が及ぼす影響　』 教育の最終目的は「子どもの自立」であると考える。そして、自立した社会性のある人間を育てることが、部活動の強化にもつながる。そのために、部活動はどうあるべきかを柔道の指導を通して考えたい。 本研究では、トップダウンだけよりもボトムアップを取り入れた組織の方が、子どもの自立がさらに促されて生産性も高まり、競技力の強化につながると考え、本校で実践している練習計画や練習内容を紹介する。また、ボトムアップをチームに浸透させていくために、指導者としての留意点についても考察する。 また、本校では部活動の目的・目標を「MVV モデル」にして、チームの理念として掲げている。この「MVV モデル」をどのようにチームに浸透させていったかを併せて紹介する。
	「弓道」　愛知県立西春高等学校　成田　敦彦 『　弓道部創設への道　』 佐屋高校は農業・家庭の専門学科を設置する高校である。私が赴任してすぐに感じたのは、部活動に興味はあるが授業後の時間を持て余している生徒の存在である。そのような生徒が活躍できる場を提供したいと考え、佐屋高校に弓道部を創設することを目指し、活動を行った 部員の募集をかけるとすぐに参加希望者が集まり、弓道同好会が発足した。短い練習時間の中、練習内容を工夫することで技術を高める活動が認められ、弓道部に昇格することができた。 現在に至るまでドイツスポーツ少年団との弓道交流会の実施や、県大会出場を果たすなど、弓道部での活動を通して「普通じゃできない経験」をすることができている。これらの経験を経て、部員が大きく成長することができた様子を紹介する。
第３分科会	「体操」　愛知県阿久比高等学校　若子　雄大 『　部活動の価値を高める方法　』 近年、高等学校の部活動の運営は大変難しい状況にあるといわれている。そして、現在はまず義務教育である小・中学校を中心に部活動の地域移行が進められようとしており、その流れを受けて、高等学校においても地域移行が叫ばれている。しかし、部員の減少、生徒にとっての部活動の意義、指導者の負担などの課題だけでなく、地域移行の推進においても様々な問題点がある。 本研究では、阿久比高校男子新体操部が全国大会で活躍するために、１０年間で行った「部員数の増やし方」、「地域移行の方法」、「指導者の確保」、「活動の価値の高め方」などを紹介することで、これからの部活動を盛り上げ、運営の一助となれば幸いである。

	「登山」　　愛知県立小牧工科高等学校　　氏家　幸一 『　登山系活動の持続可能性　』 県内の登山系（山岳、スポーツクライミング）部活動への生徒加入数は、高校生徒数の減少や少子化の流れに反して増加局面にあり、全国高体連でも同様の傾向を示している。一方で、レジャー白書（2022）によると、2021 年の登山の参加人口は 440 万人であり、2019 年と比較して 200 万人以上も減少している。登山活動は基本的に屋外であることを考えると、コロナ禍というだけでその減少幅を説明するのは難しい。 本研究では、その理由解明の一助になればと思い、部活動に加入する生徒を対象に、入部した動機や卒業後の継続意思などについてアンケートを行った。その結果から、登山人口減少の理由を考察するとともに、生涯スポーツとして登山活動を継続していく方策を探る。

12　その他

○　研究大会の参加にあたり、発熱症状や咳など、体調がすぐれない方は参加をお控えくださいますよう御協力をお願いします。